



## 殺菌剤

# コサイド® 3000

## 園芸用殺菌剤 (Kocide® 3000)

農林水産省登録  
第 2 2 5 3 3 号



種類名／銅水和剤

有効成分の種類及び含有量／水酸化第二銅……………46.1%  
(銅として30%)

その他の成分の種類及び含有量／鋳物質微粉、界面活性剤 等……………53.9%

物理的・化学的性状／暗青緑色水和性微粒及び粗粉

毒劇法／該当なし

消防法／該当なし

有効年限／5年

包装／500g×20袋 ダンボール箱、1kg×10袋 ダンボール箱

®：コサイドLLC社の登録商標

## 特長

- 果樹、野菜の幅広い病害に優れた予防効果を発揮する銅殺菌剤です。
- 量りやすい、溶けやすい、サラサラした製剤で薬液調製の時間を短縮できます。
- 作物への汚れが少ないドライフロアブル剤です。
- 有機JAS法に適合。有機栽培や、特別栽培の病害防除にも使えます。

## 適用病害虫及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール当り 使用液量	使用時期	本剤及び銅を含む 農薬の総使用回数	使用方法
ばれいしょ	そうか病	100	—	植付前	—	種いも 瞬間浸漬
	軟腐病	1000	100～300 ℓ	—		散布
トマト ミニトマト	疫病					
	だいこん					
こんにゃく	葉枯病					
ほうれんそう	べと病、白斑病					
ブロッコリー	花蕾腐敗病					
てんさい	褐斑病					
あずき	褐斑細菌病					
いんげんまめ	かさ枯病					
だいず	斑点細菌病					
いちご	炭疽病、 角斑細菌病					
にんじん	黒葉枯病	500～1000				
たまねぎ	りん片腐敗病	1000				
	軟腐病	1000～2000				
野菜類	軟腐病、黒腐病、 斑点細菌病、 褐斑細菌病	2000				
アスパラガス	茎枯病、斑点病、 褐斑病					
にんにく	春腐病					
やまのいも	葉淡病					
しよくよう ほおずき	斑点細菌病					
くわい	ひぶくれ病					
かぼちゃ	果実斑点細菌病					
茶	赤焼病、もち病、 炭疽病、網もち病、 褐色円星病、 新梢枯死症 (輪斑病菌による)		1000	200～400 ℓ	摘採 14日前まで	
びわ びわ(葉)	がんしゅ病	2000	200～700 ℓ	—		
いちじく	疫病			発芽前		
かんきつ	かいよう病			生育期		
	黒点病、 褐色腐敗病	—				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール当り 使用液量	使用時期	本剤及び銅を含む 農薬の総使用回数	使用方法
ぶどう	べと病、さび病	2000	200~700 L	—	—	散布
おうとう	褐色せん孔病			収穫後		
りんご	斑点落葉病、 すす点病、 すす斑病、 輪紋病、褐斑病			—		
ホップ	べと病			—		
うめ	かいよう病			硬核期まで		
キウイフルーツ				花腐細菌病		
	休眠期～ 叢生期 (新梢長 約10cm)					
もも ネクタリン	せん孔細菌病	1000	—	収穫後から 落葉まで	—	散布
パパイヤ	軟腐病			開花前まで		
				—		

## 上手な使い方

### ■上手な調製方法

一回に大量にタンクへ投入せず、攪拌しながら徐々に投入し希釈してください。

薬剤投入口にストレーナのある散布機では、事前にストレーナをはずしてください。サラサラと振り入れていただくことで、すばらしい溶けやすさを実感いただけます。



## 使用上の注意

- かんきつに使用する場合は次の事項に注意してください。
  - ・薬害が発生するおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。特に、果実の着生時期の散布ではスターメラノーズを生じるおそれがあるので厳守してください。
  - ・寒害などによる葉の落葉を本剤が助長することがあるので、樹勢の弱い木への散布や異常低温の予想される場合の散布はさけてください。なお、散布はなるべく温暖な日を選んで行い、散布液が夕方までには乾くようにしてください。
- ぶどうに使用する場合、次の事項に十分注意してください。
  - ・薬害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
  - ・後期（果実肥大期以降）の散布は果房の汚れを生じるので、有袋栽培では袋がけ前の散布はさけてください。また、無袋栽培ではこの時期以降収穫まで使用しないでください。
- おうとう、いちじくに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和

剤を加用してください。

- もも、ネクタリンに使用する場合、収穫後から落葉までは2000倍で散布し、開花前には1000倍で散布してください。なお、収穫後の散布では葉害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- クウイフルーツに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意してください。
  - ・発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用してください。果実に汚れを生じるおそれがあるので留意してください。
  - ・過度の連用をさけてください。
  - ・品種によっては葉害を生じることがあるので、事前に確認する等、注意して使用してください。
- りんごに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。また、本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花直後から落花後30日頃までは使用しないでください。
- いんげんまめに使用する場合、幼苗期及び高温時の散布は葉害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- きゅうり、はくさい、キャベツおよびだいこんに対しては葉害を生じやすいので、次の事項に十分注意してください。
  - ・高温時は症状が強くなるため散布はさけてください。
  - ・はくさい、キャベツおよびだいこんに使用する場合は、葉害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。収穫間際には汚れを生じるので留意してください。
- カリフラワー、にんにくおよびくわいに使用する場合は葉害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。また、くわいに使用する場合、高温時の散布は葉害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- ブロッコリー、カリフラワーに使用する場合、花蕾形成期以降の散布は花蕾に葉害を生じるおそれがあるので花蕾形成期までに散布してください。
- ばれいしょの種いも浸漬は無萌芽種いもを対象としてください。萌芽種いもには葉害を生じるので使用しないでください。
- ほうれんそうに使用する場合、葉の汚れを生じるので収穫間際の散布はさけてください。また、雨よけ栽培の場合も収穫までの期間を十分取ってください。
- ほうれんそうに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意してください。
  - ・高温時は症状が強くなるため散布はさけてください。
  - ・連用により葉の周辺が黄化するおそれがあるので、過度の連用をさけてください。
  - ・品種によっては葉害を生じることがあるので、事前に確認する等、注意して使用してください。
- うめに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意してください。
  - ・発芽期以降は必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。果実に汚れを生じるおそれがあるので留意してください。
  - ・過度の連用をさけてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 木酢液等は混ぜないでください。
- くわいに使用する場合、散布後7日間は落水、かけ流しをしないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使

用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。



### 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用してください。
- 種いも浸漬の際は、不浸透性手袋などを着用してください。
- 作業後はうがいをするとともに洗眼してください。

**水産動植物**…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。

水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

**保管**…直射日光をさけ、食品と区別してなるべく低温な場所に密封して保管してください。